琉球大学学術リポジトリ

沖縄県内大学生の平和意識調査（九大調査）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2007-10-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲地, 博, Nakachi, Hiroshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2172

〔資料紹介〕

沖縄県内大学生の平和意識調査（九大調査）

仲地　博

はじめに

本稿は、九州大学教養部の平和問題研究会が行った平和意識調査[1]のうち、沖縄県内学生の意識を紹介するものである。

同研究会では一九八六年一一月から一二月にかけて九州三県の市民と七大学の学生の意識調査を行っている。沖縄県内でも市民は那覇と読谷で、学生は琉球大学と沖縄大学で調査を行っている。調査結果は詳細な分析と共に『九州・沖縄地区住民の平和意識』[2]（以下「九大八七年報告書」と略称する）にまとめられ公表されているが、報告書中では各大学ごとの内訳の数字は割愛されている。県内学生の平和意識調査はこれまでいくつか行なわれているが[3]、この時期のものは他にない。いささか時期遅れの感は免れないが、沖縄の平和意識を分析する上で貴重なデータであり、将来の研究の資料として記録に残す意義は小さくない。同研究会の好意により、資料の提供を受けここに紹介するものである。なお、コメントにわたる部分は筆者の責任によるものである。

報告書によれば、調査の概要は以下の通りである。[1]

調査時期　一九八六年一一月～一二月

調査対象　市民（福岡市、長崎県厳原町（対馬）、長崎市、沖縄県読谷村、那覇市）計一、二七九人

大学生（九州大学、西南学院大学、福岡大学、長崎大学、活水女子大学、琉球大学、沖縄大学）計一、二七八人

各大学ごとの調査対象者数は次の通りである。[5]

大学名	件数（人）	%
琉球大学	217	17.0
沖縄大学	234	18.3
沖縄2大学計	451	
九州大学	300	23.5
福岡大学	92	7.2
西南大学	116	9.1
長崎大学	190	14.9
活水女子大学	129	10.1
九州5大学計	827	
7大学計	1,278	100.

調査方法　市民（面接により回答に同意された方に調査表を配布、回収は郵送を依頼）

学生（教室での集団記入）

ところで、同研究会は一九八二年一一月にも九州地区大学生の平和意識調査を行っており（以下前回調査と略）、その結果も公表されている。[5] 本稿では分析の対象として前回調査も適宜紹介する。

なお、市民意識調査については、各地点ごとのデータが「九大八七年報告書」に収録されている。那覇市民・読谷村民分についても収録されていることを付言する。

注

1　平和問題研究会は、教養部教官の有志による研究会である（研究代表者・高田和夫助教授）。調査は「九州・沖縄地区住民の平和意識の総合的研究」の一環として文部省の科学研究費補助金を得て行なわれている。本稿執筆にあたっては、同研究会から資料の提供を受けた。心から感謝の意を表したい。

2　『九州・沖縄地区住民の平和意識〜昭和61・62年度科研一般研究B報告〜』（一九八七年一一月九州大学教養部平和問題研究会）（以下『九大八七年報告書』と略）

3　詳しくは、仲地「沖縄県内大学生の平和意識」琉大法学三六号

4　注2の報告書一〜四頁。

5　報告書では七大学の合計が示されているが、本稿では、比較の便を考えて、原資料を加工し沖縄県内二大学とその他五大学に分けて数字を紹介する。なお、本稿で言う県内学生とは、沖縄県内の二大学に在籍する学生の意であり、沖縄県出身学生を意味しているわけではない（何をもって出身地とするかの議論はあろうがここでは置く）。調査一、二七八人中、出身高校所在地を見ると三六〇人が沖縄県であり、そのほとんどが県内二大学に在籍している学生と見て良いであろう。それ故、県内の調査対象学生四五一人中約八割が沖縄県出身者とみなされる。

6　『九州・沖縄地区学生の平和意識〜昭和五七年度特定研究報告〜』（一九八三年一二月九州大学教養部平和問題研究会）

調査結果の概要

1　暮らし方・社会観

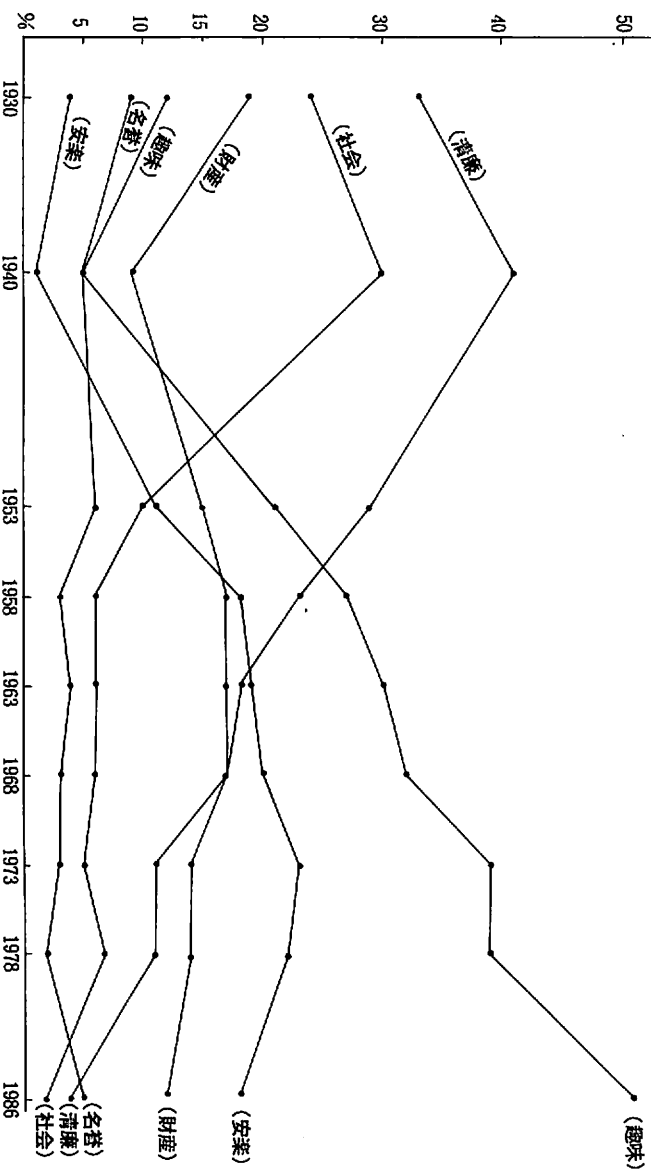
設問1は、「自分の気持に近い暮らし方」をたずねたものである（表1）。「趣味にあった暮らし」の趣味派が五三・六％で過半数、「のんきに暮らす」の安楽派が一六％でつづいている。

表1　自分の気持に近い暮らし方は次のどれですか。一つ選んで下さい。

	沖縄2大学（86年調査）
0．金や名誉を考えずに自分の趣味にあった暮らし方をする（趣味）	53.6
1．その日その日をのんきにクヨクヨしないで暮らす（安楽）	16.0
2．一生懸命に働き金持ちになる（財産）	12.8
3．世の中の正しくないことを押しのけてどこまでも清く正しく暮らす（清廉）	4.7
4．自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げて暮らす（社会）	2.9
5．まじめに勉強して、名をあげる（名誉）	4.5
6．その他（具体的に書いて下さい）	5.4

「社会のためすべてをささげる」社会派は三％に足らず、「清く正しく」の清廉派と「名をあげる」の名誉派の両者は五％に満たない。なお、沖縄県内ではないがこの調査は戦前から継続的になされている。その推移をグラフにすると図1の通りである[1]。戦後一貫した趣味派の増加ぶりはみることばかりであり、いわゆる「生活保守主義」と呼ばれるものが暮らしかたにおいて表われていると言えよう。

図1　「自分の気持に近い暮らし方」年度別推移



参考までに、琉球大学で全学生を対象として行なわれた学生生活実態調査[2]（以下では「琉大実態調査」と略）の類似の質問を紹介しよう（表2）。「やりたいことをする」「幸せな家庭生活」「趣味にあった暮らし」が上位を占め、「社会のため」「迷惑をかけない」が二％台である。「自分の限界まで思い切ってチャレンジしてみたい」も一〇・二％あるが、おおよそ九大調査と一致する傾向を示すと言えよう。

表2　あなたは、どんな人生を送りたいと考えていますか。

	(%)
1．名声、地位、財産を得たい	6.3
2．真面目に働いて経済的に豊かな暮らしをしたい	5.3
3．その日その日を精一杯、くよくよしないで暮らしたい	7.3
4．金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らしをしたい	9.0
5．愛情ある幸せな家庭生活をしたい	19.8
6．何時も誠実に生き、他人から信頼される生活をしたい	8.2
7．自分自身より社会のためになるような人生を送りたい	2.3
8．なにをするにせよ自分の限界まで思いきってチャレンジしてみたい	10.2
9．自分のやりたいことをして、経済的にも豊かな暮らしをしたい	26.7
10．だれにも迷惑をかけないように暮らしたい	2.1
11．その他	2.7

設問2は「今の日本の社会を良い社会と思うか悪い社会と思うか」をたずねる。現状を「良い社会」「まあ良い社会」と思っているのが、九州五大学学生（以下「九州」と略）は五二・二%であるのに対し沖縄二大学学生（以下「沖縄」と略）は六一・三%と九ポイントも高く、県内学生の現状肯定的特質を示している。

琉大実態調査では表3のような発問によって学生の社会観を調査している。表4がその結果であるが、琉大学生は一般に日本社会をプラスイメージで捉えていることがわかる。すなわち、「対立」ではなく「平和」、「制約」ではなく「自由」、「衰退」ではなく「発展」、「貧しい」ではなく「豊富」、「混乱」ではなく「安定」の社会としてみており、基本的に良い状態として現状を判断していることが分かる。

しかし、「明るい」「暖かい」「健全」よりは「暗い」「冷たい」「退廃」がわずかではあるが強い見方になっていることが注目される。

表3　現在の日本の社会にどのようなイメージを持ちますか。（3つ選んで下さい。）

1. 平和	2. 自由	3. 発展	4. 豊富	5. 安定
6. 明るい	7. あたたかい	8. 健全	9. 対立	10. 制約
11. 衰退	12. 貧しい	13. 混乱	14. 暗い	15. 冷たい
16. 退廃				

表4　日本社会のイメージ（第1選択）

平和	自由	発展	豊富	安定	明るい	暖かい	健全
1,900	413	152	360	138	13	3	2
57.0%	12.4%	4.6%	10.8%	4.1%	0.4%	0.1%	0.1%
対立	制約	衰退	貧しい	混乱	暗い	冷たい	退廃
99	80	52	18	53	18	10	22
3.0%	2.4%	1.6%	0.5%	1.6%	0.5%	0.3%	0.7%

2　平和イメージ

設問3は「あなたにとっての平和とは何か、イメージにもっとも近いものを選べ」とたずねている。「戦争のない状態」が二四・四%で一位、「心の平静」が一三・一%で二位、この順序は九州も変わらず、数値もほぼ同じである。若干の違いを見せるのは、「秩序」を選んだのが、九州で六・七%であるのに対し、沖縄は一一・〇%で有意の差と思われる。秩序重視すなわち現状肯定性の特徴がここでも表れているようである。

なお、市民意識と比較すると、那覇、読谷とも「戦争のない状態」がおよそ五〇%であり、「心の平静」は一五%強にすぎない。学生で「心の平静」の割合が高くなるのは青年期の特徴であろう。

3　戦争の際の行動・戦争の原因

設問4は、「身近かで戦争が起こりそうな場合、あなたはどうするか」をたずねる。「わからない」一二%、「危

害が肉親や親せきにおよばないように手をつくす」一九・六％、「国連など国際機関への働きかけ」一八％の順となっている。九州に比べると、「国際機関への働きかけ」が高く（九州一三・四％）、「危害が肉親や親せきにおよばないように手をつくす」「地域の安全確保」など積極行動派が多く、「成りゆきまかせ」が少ないことが注目される。

設問5は戦争の原因をたずねる。「国家間の利害対立」が六割前後で一位をしめることは、九州も沖縄も同様である。次いで、沖縄では、「軍隊と兵器があるから」をあげるのが一二・〇％で二位であるのに対し、九州では七・七％で四位である。これはやはり、基地の島沖縄の現実の反映であろう。基地の存在で戦争に巻き込まれる不安感を示していると思われる。設問13のソ連脅威論が沖縄において高いのも同様に解されよう。

4　国を守る姿勢

設問6は「戦争のとき、国民は一つにまとまるべきか」をたずねる。「その通りだと思う」一一・四％に対し、「そうは思わない」が四三・三％で四倍に近い。個人主義の浸透が見られる。九州と比較すると、「そうは思わない」はほとんど変わらないが、「その通りだと思う」が少ない（九州一五・九％、沖縄一一・四％）ことは、沖縄の歴史的文化的背景を反映した有意の差かもしれない。

5　アジア関係、アジア人の日本観

設問7と8はアジア観についてである。設問7は今後の日本のアジア政策をたずねる。「日本はアジアのリーダーとなるべき」が三一・五％で一位であり、「反発をかっているから、少し手を引くべき」の二〇・六％をか

なり上回り、アジアに対する積極姿勢の選択が目立つ。

設問8は「日本はアジアの国々からどのように見られていると思うか」をたずねる。「侵略戦争への反省が足りない」五三・二%、「アジア人を蔑視している」五〇・八%、「アジアの資源や富を吸い上げ、産業自然を破壊している」三六・二%とマイナスの評価を受けていると判断している者が多く、「同じアジア人として親近感を持たれている」はわずか四・五%、「平和国家を目指して努力している」四・九%にすぎない。設問7でリーダーとなるべきとする者が比較的多数であったが、どのようなリーダーになるべきかが問われよう。

ところで、九州と比較すると、マイナス評価を予想する者が多く、プラス評価を予想する者が少ないという大きな傾向では一致するが、マイナス評価予想はすべての選択肢において沖縄で少なく、プラス評価予想はすべての選択肢で沖縄が多いことが注目される（表5）。

表5　日本はアジアからどのように見られていると思うか

		九州5大学	沖縄2大学
マイナス評価予想	アジア外交のウェートが足りない	28.3	26.6
	欧米諸国のまねばかりして、アジアの人々を蔑視している	53.0	50.8
	過去のアジアに対する侵略戦争への反省が足りない	57.5	53.2
	アジアの国々に軍事的な脅威を与えている	11.2	6.3
	アジアから資源や富を吸い上げ、産業や自然を破壊している	41.1	36.2
プラス評価予想	同じアジア人として親近感を持たれている	3.2	4.5
	欧米諸国に対抗できる技術大国として尊敬されている	28.8	29.3
	平和憲法を守り、平和国家を目指して努力している	3.1	4.9
	アジアの国々との経済協力を通してその発展に力を尽くしている	14.0	17.7

何かにつけて沖縄は南の玄関といわれ、アジアとの親近感が語られている。また、アジア留学生が沖縄は日本各地に比べ過ごしやすいと感じていると伝えられ、この数値はこのような情況を反映しているとみることができよう。

6　自衛隊

一九八六年の一一月の沖縄タイムス調査[3]で、沖縄の自衛隊の今後について「現状でいく」が五〇％をしめたことに示されるように、復帰後次第に県民の自衛隊容認度が高くなっている。学生は自衛隊をどのように見ているか。設問9は「自衛隊があった方がよいか」をたずねる。「ない方がよい」二九・二％で「あった方がよい」二三・八％を上まわっている。九州と比較すると、「あった方がよい」とするのが九州三〇・四％であるのに対し沖縄二三・八％で、自衛隊支持はなお沖縄で弱い。また、前回調査では、発問の仕方が異なり「自衛隊の存在に意味があるか」というたずねかたであったので、直接的比較はできないが、「意味がある」三〇％で「意味はない」二五％を上回っていた。今回、「ない方がよい」が多数となり自衛隊に対し、批判が強まったかにみえる。また、設問12－2は自衛隊の今後のあり方についてたずねたところ、「核武装して強化」「非核で強化」両者合わせた強化論者は、前回調査と比べ一三・八％から七・二％に減少し、縮小論者・廃止論者を合わせた数はわずかながら増加している。「九大八七年報告書」は「前回と比較して自衛隊に対する否定的な態度がやや強まっている」と分析し、「このような傾向は中曽根内閣の軍拡政策に対する国民の不安や批判の表れであると解する[4,5]」とするが、この分析は沖縄についてもあてはまりそうである[6]。

自衛隊はあった方がよいとする者にその理由をたずねるのが設問10である（設問では三つ以内あげよ、となっ

ているが、手もとの資料は第一順位で選択したデータしかないので、以下は第一順位選択者についてである）。「災害出動など民生安定に協力」三七・二％が一位にあがり、自衛隊法冒頭で自衛隊の任務としてかかげられる「侵略を防ぐ」二三・三％を上回るのはこれまでの学生調査と同様である。沖縄が九州と異なるのは、失業救済を自衛隊の存在理由にあげたのが多いことである（沖縄八・八％、九州四％）。失業に悩む沖縄社会の反映かと思われる。

自衛隊はない方がよいとする者にその理由をたずねるのが設問11である。「かえって戦争の危険をます」二二・七％が一位、「武器で防衛はできない」が一八・六％と続く。九州と比較すると、「基地問題が生じる」が沖縄では一二・一％で四位であるの対し、九州では三・六％で八位であることが注目される。基地被害に悩む沖縄の意識を如実に反映している。(7)

7　安全保障の方式

設問12の1は、日米安保条約の今後についてたずねる。有事駐留が三四・八％と一位、ついで「現状維持」が二四・九％、「廃棄」が一八・七％である。前回調査に比較し、廃棄派が減り、現状維持と有事駐留が増えたことが注目される。有事駐留派を現状批判と見れば安保批判派は五三・五％（九州五四・一％）である。他方、有事駐留派を基本的には安保を前提としていると見れば安保肯定者は六四・二％（九州五九・〇％）となる。九州と比較し安保の肯定度が高く、しかも廃棄派は九州より明確に少ない（九州二四・二％、沖縄一八・七％）。前回調査以来確認されている沖縄学生の安保容認度の高さを裏付けることになった。

設問12の2は自衛隊の今後のあり方をたずねる。「現状維持」三一・六％で一位、「縮小」が三〇・〇％で二

位、「廃止」一八・六％と続く。自衛隊の項でも触れたが、「核武装・強化」「非核で強化」の強化論者は七・二％、「廃止」は一八・六％と、廃止論者が二倍以上多い。「縮小」と「廃止」を合わせると五割に近い。「現状維持」を現状程度にとどめるべきで拡張政策には反対という批判派と見るならば、政府の自衛隊政策に批判的な者は約八〇％になる。他方、「現状維持」も「縮小」も基本的には自衛隊の存在を是認をする立場と見るならば、今後も自衛隊を支持する者は約七〇％となる。九州と比べて沖縄の特徴はなく、前回との比較でいえば、廃止派が激減しその分縮小派が増えたこと、強化派が減りその分現状維持が増えたのが特徴である。

8　ソ連脅威・戦争の可能性

設問13は「ソ連が日本を攻撃してくるおそれがあると思うか」をたずねる。「思う」が三九・六％で「思わない」三〇・九％を上回る。九州では、これが逆転し「思わない」が多くなる。ソ連の極東に配備された核ミサイルが沖縄の米軍基地を目標にしているといわれるが、基地の存在が県内学生の不安感を強めていると解される。それは、設問16が、「日本が戦争にまきこまれるのはどのような場合か」をたずねたのに対し、「ソ連が一方的に侵略してくる」と答えたものはほとんどいずに(一・一％)、「米ソ対決の際にアメリカとの軍事協力があるためソ連から攻撃を受ける」と答えたのが六六・一％と圧倒的多数になることからも裏付けられる。しかし、これが日米安保批判に直接的に結び付いているわけではないのは、設問12の1の結果から明らかである。多くの学生にとって日米安保は諸刃の剣として意識されているということになろう。すなわち、日米安保という集団安全保障体制は日本の平和に役立っていると同時に場合によっては、米ソ間戦争に日本が巻き込まれる原因になる可能性を持つとしているのであろう。

ところで、注目すべきことは、経済摩擦の結果として日米間戦争の可能性を考える者が五・三％おり、ソ連の侵略を予測する者よりはるかに多いこと、そして前回調査より若干ではあるが増加していることである。今後の日米関係と国民意識の動向に留意しておかなければならないでろう。

設問14は「ソ連が攻撃してきたときどうするか」をたずねる。「その時に考える」が三五・二％で一位、「武力によらない方法で抵抗」が二〇・一％で二位、「一切抵抗せず逃げる」が一三・七％で三位となっている。「一切抵抗せず降参する」が九州では六・五％であるのに対し沖縄で一〇・五％というのは、陸上戦の悲惨さが沖縄で語り伝えられていることを考えると、有意の差といえそうである。

設問15は、「日本が戦争をおこなったり、まきこまれたりするおそれ」をたずねる。「強く感じる」「多少は感じる」合わせて八一・九％の高率となっている。

前回調査と比較すると、設問13でソ連が攻撃してくると思わない者が四・三ポイント減少し、設問16でソ連が一方的に侵略してくると思う者も減少している。最近のソ連の外交政策へ敏感に反応していると思われる。

9　原子力発電

設問17は、「原子力発電の増強」についてたずねる。反対は「安全性未確認・放射能汚染の心配で反対」が三八・六％、「放射能廃棄物の処理技術が未確立で反対」が一五・四％、「軍事目的転用のおそれで反対」が七・〇％、合計で六割を越える。それに対し、賛成は「有力エネルギー源だから賛成」二〇・六％、「経済的だから賛成」二・五％、合計二三・一％にとどまり、反対派が圧倒している。

10　軍需産業・進路

設問18は、軍需産業についてたずねる。「徐徐に縮小」が三九・六％で一位、「現状維持」が二三・三％と二位となっている。「極力強化」は一・一％にすぎず、他方「即時全廃」は九・七％であり、学生は軍需産業に対し批判的といえよう。

設問19は軍需産業への就職をたずねる。「軍需品を扱う企業・官庁へは就職しない」二八・九％で一位であるが、他方「自分の就職選択についてはまったく関係ない」とする者も二六・七％いる。理念理想と現実の問題との乖離現象が見られる。

注

1　数値は『九大八七年報告書』41頁より引用。原出典は日高六郎編『戦後日本を考える』筑摩書房一九八六年。なお、グラフ中の八六年度の数値は九州七大学である。

2　琉球大学学生部『昭和六〇年度学生生活実態調査報告書』四五頁。

3　沖縄タイムス一九八七年一月一日。「沖縄の自衛隊を今後どうしたらよいと思いますか」。強化する（五・六％）、現状でいく（五〇・〇％）、縮小する（二一・〇％）、撤去する（一四・八％）。なお、同趣旨の質問で八七年四月の琉球新報調査（琉球新報一九八七年五月一二日）では現状のままでよい四〇・五％となっている。

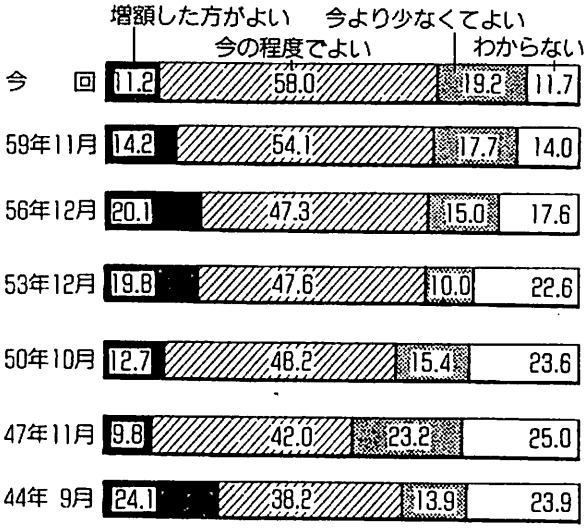
4　「九大八七年報告書」七頁、九頁。

5　総理府の「自衛隊・防衛問題に対する世論調査」では、防衛予算の規模について「増額した方がよい」は五三年をピークに減少傾向であり、逆に「今より少なくてよい」は増加の傾向にある。朝日新聞八八年六月二七日（図とも）。

6　参照、仲地「沖縄県内大学生の平和意識」琉大法学三六号四三・四四頁。

7　もっとも沖縄の基地問題でいうと、反戦感情は別として現実の基地公害のほとんどは米軍基地問題であり、自衛隊のそれではない。

防衛予算の規模に対する意識（数字は%）



おわりに

クロス分析をする余裕がなく、調査結果の紹介も以上のような概要にとどまる。全体を通して、沖縄県内学生についての特徴をまとめると次のようになろう。

(1)現状を受け入れる傾向、すなわち現状肯定的傾向があり、それは九州学生よりも強い。(2)九州学生と比較すると、沖縄学生の意識に、沖縄の地理的、歴史的、あるいは現実の社会的情況を反映していると見られるところがある。(3)自衛隊について言えば、自衛隊の積極的支持は四分の一に達せず、九州学生と比較しても支持は弱く、前回調査と比較すれば自衛隊に対してはやや批判的傾向が強まった。(4)安保条約について言えば、廃棄を求める者は二割に達せず、九州学生と比較して容認度は高く、前回調査と比較しても容認度は高まっている。

資料：調査票と単純集計の結果

平和意識に関する調査

回答は、該当する番号を○印で囲んで下さい。

(1)　年齢　　歳（数字を記入して下さい）
(2)　性別　　0．男　　1．女
(3)　専攻　　0．文系　　1．理系
(4)　学年　　0．1年　　1．2年　　2．3年　　4．4年
(5)　出身高校所在地　　県（都・道・府）
（県名を記入して下さい）

問1　自分の気持に近い暮らし方は次のどれですか。一つ選んで下さい。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．金や名誉を考えずに自分の趣味にあった暮らし方をする	50.0	53.6	
1．その日その日をのんきにクヨクヨしないで暮らす	19.2	16.0	
2．一生懸命に働き金持になる	11.0	12.8	
3．世の中の正しくないことを押しのけてどこまでも清く正しく暮らす	3.3	4.7	
4．自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げて暮らす	1.3	2.9	
5．まじめに勉強して、名をあげる	5.7	4.5	
6．その他（具体的に書いて下さい）	9.4	5.4	

問２．あなたは、いまの日本の社会を良い社会だと思いますか、悪い社会だと思いますか。
次のなかから最も近いものを一つ選んで下さい。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
０．良い社会である	5.1	8.0	
１．まあまあ良い社会である	47.1	53.3	
２．どちらともいえない	34.1	27.8	
３．どちらかといえば悪い社会である	13.7	10.9	

問３　あなたにとって、「平和」とは何ですか。あなたのイメージに最も近いものを一つ選んで下さい。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
０．心の平静	26.0	23.1	
１．繁　栄	2.2	2.2	
２．神のみこころ	0.8	1.8	
３．正　義	3.0	2.7	
４．秩　序	6.7	11.0	
５．愛	12.9	14.8	
６．戦争のない状態	26.7	24.4	
７．国際友好	15.6	15.2	
８．搾取のない状態	2.9	2.5	
９．その他（具体的に書いて下さい）	3.2	2.2	

問4　身近かで、戦争がおこりそうな場合、あなたはどうしますか。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．戦争がおこらないよう、神か仏に祈る	6.2	4.0	
1．戦争の危害が少なくとも肉親や親戚の者におよばないように手をつくす	16.3	19.6	
2．自分が日常生活をおくっている地域の安全は確保するようにする	9.0	11.2	
3．政府の安全保障政策に協力する	8.6	8.5	
4．戦争がおこらないよう、国連などの国際機関に自分なりの働きかけをする	13.4	18.0	
5．成り行きにまかせる	21.6	15.1	
6．わからない	20.8	22.0	
7．その他（具体的に書いて下さい）	4.0	1.6	

問5　あなたは、戦争がおこるのはなぜだと思いますか。
次のなかから最も近いものを一つ選んで下さい

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．人間にはもともと戦いを好む心があるから	9.1	8.7	
1．特定の思想や宗教を信じる者がいるから	4.4	8.7	
2．戦争によって金もうけをしようとする者がいるから	9.2	7.3	
3．軍隊と兵器があるから	7.7	12.0	
4．国家間の利害が対立するから	63.5	58.6	
5．その他（具体的に書いて下さい）	6.1	4.7	

問6　「いざ戦争になったときには、国民は一つにまとまるべきだ」という意見について、あなたはどのように思いますか。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．その通りだと思う	15.9	11.4	
1．そうは思わない	43.9	43.3	
2．どちらともいえない	27.2	32.1	
3．わからない	9.7	10.7	
4．その他（具体的に書いて下さい）	3.3	2.5	

問7　日本はアジアとの関係をどうしたらよいと思いますか。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．日本はアジアのリーダーとなるべきだ	27.7	31.5	
1．今のままでよい	18.8	18.8	
2．反発をかっているから、少し手を引くべきだ	20.9	20.6	
3．わからない	16.9	17.5	
4．その他（具体的に書いて下さい）	15.6	11.6	

問8　あなたは、今の日本はアジアの国々からどのように見られていると思いますか。
次のなかから、そう思うものがあれば、いくつでもあげて下さい。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．アジア外交のウェートが少ない	28.3	26.6	
1．同じアジア人として親近感を持たれている	3.2	4.5	
2．欧米諸国のまねばかりして、アジアの人々を蔑視している	53.0	50.8	
3．欧米諸国に対抗できる技術大国として尊敬されている	28.8	29.3	
4．過去のアジアに対する侵略戦争への反省が足りない	57.5	53.2	
5．平和憲法を守り、平和国家を目指して努力している	3.1	4.9	
6．アジアの国々に軍事的な脅威を与えている	11.2	6.3	
7．アジアの国々との経済協力を通してその発展に力を尽している	14.0	17.7	
8．アジアから資源や富を吸い上げ、産業や自然を破壊している	41.1	36.2	
9．その他（具体的に書いて下さい）	1.8	1.1	

問9　あなたは自衛隊があった方がよいと思いますか、ない方がよいと思いますか。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．あった方がよい	30.4	23.8	
1．ない方がよい	30.0	29.2	
2．どちらともいえない	31.6	40.5	
3．わからない	5.2	3.3	
4．その他（具体的に書いて下さい）	2.8	3.1	

問10　〔問９で０と答えた人に〕自衛隊はあった方がよいと思われる理由は
どのようなことですか。三つ以内あげて下さい。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
０．外国からの侵略を防ぐ	28.1	23.3	
１．国内の治安維持	17.5	14.4	
２．災害出動など民生の安定に協力	37.1	37.2	
３．失業救済	4.0	8.8	
４．アメリカをはじめとする自由陣営との協力に役立つ	3.6	6.1	
５．国連の平和維持活動に協力できる	8.4	8.8	
６．その他（具体的に書いて下さい）	1.2	1.4	

問11　〔問９で１と答えた人に〕自衛隊はない方がよいと思われる理由は
どのようなことですか。三つ以内あげて下さい

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
０．今の自衛隊の実力では国の防衛に役立たない	7.6	5.0	
１．今日においては、もはや武器で国の防衛はできない	16.6	18.6	
２．自衛隊は国民を抑圧する	3.7	6.2	
３．クーデターの恐れがある	1.5	2.1	
４．国民の経済負担が大きい	22.6	15.6	

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
5．他国に対して脅威をあたえる	5.5	4.1	
6．基地問題が生じる	3.6	12.1	
7．他国からの侵略の脅威は感じられない	1.0	1.2	
8．かえって戦争の危険をます	24.5	22.7	
9．自衛隊はアメリカの言いなりになる存在である	12.5	9.7	
10．その他（具体的に書いて下さい）	1.0	2.7	

問12　今の国際情勢のなかで、日本国民の安全を守る方法として、
どれが適当だと思いますか。

(1)「日米安保条約」について

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
0．もっと強化する	2.8	4.5	6.9
1．現状を維持する	26.3	24.9	20.2
2．米軍基地を取り払い、有事の際の駐留だけにする	29.9	34.8	29.1
3．できるだけ早く廃棄する	24.2	18.7	25.1
4．わからない	15.6	16.4	17.1
5．その他（具体的に書いて下さい）	1.1	0.7	1.4

(2)自衛隊について

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
0．もっと強化して、核武装する	1.8	1.4	2.0
1．核武装はしないが、もっと武装を強化する	6.9	5.8	11.8
2．今のままでよい	30.7	31.6	25.1
3．今よりも武装を縮小する	27.9	30.0	18.5
4．廃止する	20.4	18.6	28.1
5．わからない	10.2	11.2	13.6
6．その他（具体的に書いて下さい）	2.1	1.4	0.8

問13　あなたは、ソ連が日本を攻撃してくるおそれがあると思いますか。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
0．思う	34.1	39.6	38.2
1．思わない	39.3	30.9	35.2
2．わからない	23.9	27.5	25.1
3．その他（具体的に書いて下さい）	2.7	2.0	1.6

問14　もしソ連が日本に攻撃してきたとしたら、あなたはどうしますか。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
0．自衛隊に参加したり、協力して戦う	3.6	4.6	5.8
1．なんらかの方法で自衛隊を支援する	9.7	7.3	9.9
2．独自のゲリラ的抵抗をする	4.5	3.9	4.3
3．ストライキ等の武力によらない方法で抵抗する	17.3	20.1	20.0
4．一切抵抗せず、逃げる	13.1	13.7	13.2
5．一切抵抗せず、降参する	6.5	10.5	7.8
6．ソ連と協力する	1.5	1.1	0.6
7．その時に考える	40.0	35.2	35.5
8．その他（具体的に書いて下さい）	3.8	3.4	2.9

問15　将来、日本が戦争を行ったり、戦争にまきこまれたりするおそれを感じますか。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
0．強く感じる	19.5	23.8	30.0
1．多少は感じる	66.1	58.1	57.5
2．全然感じない	7.9	7.9	6.7
3．わからない	6.0	9.4	5.8
4．その他（具体的に書いて下さい）	0.5	0.7	

問16　〔問15で0か1と答えた人に〕将来、日本が戦争にまきこまれるとしたら、それは次のどの場合だと思いますか。もっとも強い可能性のあるものを一つ選んで下さい。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．日本が積極的に朝鮮半島などに進出することによって、その国との間に戦争がおこる	1.4	1.1	2.3
1．アメリカがおこなうソ連以外の国との戦争にまきこまれる	17.6	18.3	14.7
2．アメリカとの軍事協力があるため、アメリカ・ソ連の対決の際にソ連から攻撃を受ける	64.6	66.1	67.5
3．ソ連が一方的に侵略してくる	1.3	1.1	3.2
4．経済摩擦などから、アメリカと衝突する	5.2	5.3	4.6
5．わからない	6.5	5.0	6.2
6．その他（具体的に書いて下さい）	3.5	3.1	1.4

問17　原子力発電の増強について、あなたの考えに最も近いものを一つ選んで下さい。

	九州5大学	沖縄2大学（86年調査）	沖縄2大学（82年調査）
0．石油に代わる有力なエネルギー源だから、賛成だ	25.6	20.6	
1．石油火力発電にくらべ経済的だから、賛成だ	2.8	2.5	
2．安全性が十分に確認されているとはいえないし、また放射能汚染の心配もあるから、反対だ	37.2	38.6	
3．放射性廃棄物の処理などの技術が未確立だから、反対だ	16.0	15.4	

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
４．核兵器などの軍事目的に転用されるおそれがあるから、反対だ	3.1	7.0	
５．わからない	8.2	11.3	
６．その他（具体的に書いて下さい）	7.2	4.5	

問18　日本の軍需産業について、次のうちあなたの考えに近いものを一つ選んで下さい。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
０．極力強化につとめ、武器輸出にまで乗り出すべきだ	1.0	1.1	1.6
１．輸出までは望まないが、先端技術開発に直結する部分を中心に漸次増強すべきだ	12.8	11.5	14.9
２．拡大は危険だし、縮小は失業を生むので、現状維持程度がのぞましい	26.4	23.3	22.7
３．急激な縮小は経済不況に拍車をかけるので、徐々に縮小すべきだ	38.0	39.6	28.2
４．行政改革のためにも、軍需産業は即時全廃すべきだ	11.1	9.7	18.6
５．わからない	9.1	13.4	13.7
６．その他（具体的に書いて下さい）	1.7	1.4	0.2

問19　卒業後の進路との関連で、次のうち、あなたの考えに近いものを一つ選んで下さい。

	九州５大学	沖縄２大学（86年調査）	沖縄２大学（82年調査）
0．軍需品を扱う企業・官庁には就職しない	33.0	28.9	
1．軍需産業への就職は避けたいが、ほかに就職口がない時はやむをえない	10.0	8.7	
2．軍需品を扱うかどうかは、自分の就職先の選択について全く関係がない	28.5	26.7	
3．軍需品を扱う程度に応じて、ケース・バイ・ケースで考える	9.2	8.7	
4．将来その振興が必要な分野なので、積極的に飛び込んで行きたい	0.6	2.3	
5．わからない	16.0	22.8	
6．その他（具体的に書いて下さい）	2.8	2.1	

（注）

1　集計各表の数字は比率（％）を示す。なお、少数第２位を四捨五入してあるので合計が100にならないことがある。

2　空白回答（ＮＡ）は分母から除いてある。